

鶴田町 行政系施設計画

令和3年1月

令和3年4月改正

令和3年9月改正

令和5年1月改正

鶴田町

目次

第1章 [計画の概要](#)

1. 計画の目的.....	1
2. 計画の位置づけ.....	1
3. 計画期間.....	2
4. 対象施設.....	2
5. 進行管理.....	3

第2章 [施設の状態等](#)

1. 施設の利用状況.....	4
2. 施設の維持管理費.....	5
3. 施設の状態.....	6
4. これまでの主な整備・改修状況.....	7

第3章 [管理整備の方針](#)

1. 鶴田町公共施設等総合管理計画における基本的方針.....	1 1
2. 対策の優先順位に関する基本的な考え方.....	1 1
3. 今後の整備方針.....	1 6
4. 改修等の今後のスケジュール.....	1 6
5. 改修等の事業費・財源.....	1 6
6. フォローアップの実施.....	1 6

個別票	1 7
---------------------------	-----

第1章 計画の概要

1. 計画の目的

全国の自治体では、過去に建設された公共施設等がこれから大量に大規模改修や建て替えの時期を迎えることが懸念され、人口減少により公共施設等の需要が変化することが想定されています。

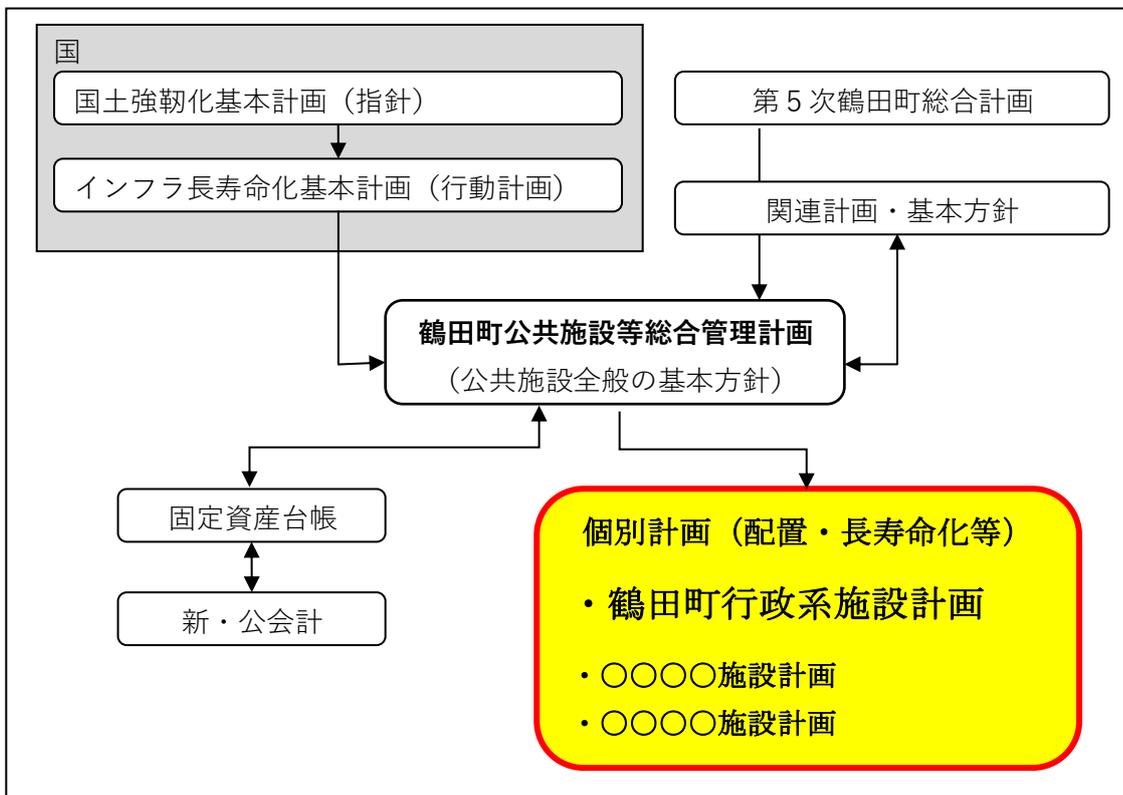
そこで、総務大臣より各自治体に対し、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するための計画（公共施設等総合管理計画）の策定に取り組むよう、通知が発出されました。鶴田町においても、1970年代から1980年代における急激な人口増加に伴い、公共施設の建設、道路や上下水道などのインフラ整備が行われ、今後、建物の大規模改修や建て替え、舗装や配水管等の更新が必要となってくることが予測されます。

これらの課題を解決するためには、町の公共施設等の全体を把握し、長期的な視点をもって、更新・統廃合・長寿命化を計画的に行い、財政負担の軽減・平準化を図らなくてはなりません。

そこで、町の公共施設等の計画的な管理及び最適な配置に関する基本的な方針を定めるため、平成29年3月に「鶴田町公共施設等総合管理計画」（以下「総合管理計画」）を策定しました。

今回策定した「鶴田町行政系施設計画」（以下「本計画」）は、総合管理計画で示した基本的方針を具現化するため、個別施設ごとに老朽化の状態や今後の方向性、方向性に伴う事業費などについてまとめたものであり、将来に向けて、保有する公共施設等を有効活用しつつ、施設保有量の適正化や計画的な保全による施設の長寿命化を図る取組の指針とするものです。

2. 計画の位置づけ



3. 計画期間

総合管理計画の計画期間は平成 29 年度（2017 年度）から令和 8 年度（2026 年度）までの 10 年間とされているため、本計画は、令和 3 年度（2021 年度）から令和 8 年度（2026 年度）までの 6 年間とし、以降、継続的な更新を行います。

なお、計画期間内であっても必要に応じ適宜見直すものとします。

4. 対象施設

本計画での対象施設は以下のとおりです。

施設名	所在地	建築年度	延床面積 (㎡)	主体構造
①鶴田町役場（庁舎）	鶴田字早瀬 200-1	1991	3,970	鉄筋コンクリート造
鶴田町役場（ポンプ室）	鶴田字早瀬 200-1	1991	42	鉄筋コンクリート造
②防雪センター	鶴田字早瀬 200-1	1989	1,298	鉄骨造
③鶴田町水防団本部兼水防倉庫	木筒字上柳川 2-8	1948	65	木造
④本町分団消防屯所	鶴田字相原 46	1955	72	木造
⑤妙堂崎分団消防屯所	妙堂崎字上林 40-2	2001	79	木造
⑥廻堰分団消防屯所	廻堰字下桂井 58-14	1959	87	木造
⑦野木分団消防屯所	野木字西松虫 75-1	1992	67	木造
⑧木筒分団消防屯所	木筒字西柳川 7	1986	66	木造
⑨田の尻分団消防屯所	廻堰字玉水 59-4	1988	57	木造
⑩大巻分団消防屯所	大巻字川瀬 82	1951	65	木造
⑪亀田分団消防屯所	鶴田字大泉 12	1980	66	木造
⑫瀬良沢分団消防屯所	瀬良沢字長田 3	1988	65	木造
⑬横菟松倉分団消防屯所	横菟字森口 333	1990	64	木造
⑭沖分団消防屯所	沖字岡田 6-1	1977	56	木造
⑮山道中野分団消防屯所	山道字小泉 7-1	1986	66	木造
⑯胡桃館境分団消防屯所	境字宮内 1-1	1990	77	木造
⑰菖蒲川鶴泊分団消防屯所	鶴泊字東田番外地	1992	62	木造
⑱大性分団消防屯所	大性字川辺 1	1980	60	木造

5. 進行管理

①実施計画の作成

- ・施設所管課は、今後6年間で実施しようとする改修・修繕等の内容について実施計画を作成し、予算編成担当課と協議します。
- ・施設所管課は、実施計画全体の中から、必要に応じて管財担当課と協議の上、実施する改修・修繕等の内容について精査し、当該年度の予算要求について決定します。

②改修・修繕等の実施

- ・実施計画及び当該年度の予算に基づき、施設所管課は工事に関する発注や計画の事務を行い、改修・修繕等を実施します。必要に応じて管財担当課に支援を仰ぎ、工事の施工管理を行います。

③改修・修繕等の内容の記録、評価

- ・竣工後は、竣工検査を行い、施行内容について評価を行います。
- ・改修・修繕等の内容は施設管理台帳に記録し、個別施設計画の見直しの際に反映させます。

第2章 施設の状態等

1. 施設の利用状況

施設利用者数（過去3か年）

（人）

施設名	2017年度	2018年度	2019年度	将来推計 (2026年度)
①鶴田町役場（庁舎）	-	-	-	-
鶴田町役場（ポンプ室）	-	-	-	-
②防雪センター	-	-	-	-
③鶴田町水防団本部兼水防倉庫	0	0	0	2
④本町分団消防屯所	590	590	590	590
⑤妙堂崎分団消防屯所	590	590	590	590
⑥廻堰分団消防屯所	590	590	590	590
⑦野木分団消防屯所	649	649	649	649
⑧木筒分団消防屯所	590	590	590	590
⑨田の尻分団消防屯所	354	354	354	354
⑩大巻分団消防屯所	354	354	354	354
⑪亀田分団消防屯所	531	531	531	531
⑫瀬良沢分団消防屯所	413	413	413	413
⑬横菴松倉分団消防屯所	590	590	590	590
⑭沖分団消防屯所	413	413	413	413
⑮山道中野分団消防屯所	590	590	590	590
⑯胡桃館境分団消防屯所	590	590	590	590
⑰菖蒲川鶴泊分団消防屯所	590	590	590	590
⑱大性分団消防屯所	413	413	413	413

※③は、利用回数（回）。

2. 施設の維持管理費

施設維持管理費（過去3か年）

(円)

施設名	2017年度	2018年度	2019年度	将来推計 (2026年度)
①鶴田町役場（庁舎）	20,418,891	18,704,042	21,815,522	22,496,905
鶴田町役場（ポンプ室）				
②防雪センター	141,060	158,510	173,255	173,210
③鶴田町水防団本部兼水防倉庫	18,934	19,129	21,918	31,284
④本町分団消防屯所	47,095	47,095	62,151	82,499
⑤妙堂崎分団消防屯所	44,557	44,557	52,373	63,714
⑥廻堰分団消防屯所	37,063	37,063	44,613	65,103
⑦野木分団消防屯所	33,591	33,591	41,141	61,631
⑧木筒分団消防屯所	235,917	33,417	40,967	61,457
⑨田の尻分団消防屯所	31,855	31,855	39,405	59,895
⑩大巻分団消防屯所	33,244	33,244	40,794	61,284
⑪亀田分団消防屯所	33,417	33,417	40,967	61,457
⑫瀬良沢分団消防屯所	45,880	45,880	57,772	71,284
⑬横菴松倉分団消防屯所	45,706	45,706	57,598	71,100
⑭沖分団消防屯所	44,317	44,317	56,209	69,721
⑮山道中野分団消防屯所	33,417	33,417	40,967	61,457
⑯胡桃館境分団消防屯所	47,963	66,647	59,855	73,367
⑰菖蒲川鶴泊分団消防屯所	32,723	32,723	97,273	60,763
⑱大性分団消防屯所	43,776	56,136	103,926	60,416

※維持管理費には、修繕費、光熱水費、各種業務委託料、指定管理料等を含む。

3. 施設の状態

役場庁舎は本町の行政機能の中核を担う施設となっており、災害発生時には災害対策の拠点となる施設として重要な役割を担っています。また、防雪センターは、冬期間の除雪車両と役場公用車の車庫として利用しています。

水防倉庫及び消防屯所は、災害現場での消火活動をはじめ、地震や水害等の災害発生時の救助・救出など地域の防災力として重要な役割を果たす水防団や各地区の消防団の活動拠点となる必要不可欠な施設です。平常時は主に消防車両の車庫や倉庫として使用されています。

行政系施設は、施設総数 18 施設、総延床面積が 6,384 m²となっています。延床面積合計の 31.7%が築 30 年以上を経過しており、いずれの施設も直営で管理しています。

老朽化の状況は、全 18 施設のうち、老朽化率が 100%を超え、かつ築 30 年以上経過している施設が全体の 12.6%という状況となっていますが、その大半が水防倉庫と消防屯所となっており、老朽化が進行しています。

施設名	耐用年数	経過年数	老朽化率 (%)	老朽化状況
①鶴田町役場 (庁舎)	50 年	29 年	58	窓の故障、建物屋根及び外壁の劣化 (コーキング剥離等)、昇降機の劣化、照明器具の劣化、トイレの劣化
鶴田町役場 (ポンプ室)	38 年	29 年	76.3	大きな損傷箇所はなし。
②防雪センター	31 年	29 年	93.6	大きな損傷箇所はなし。
③鶴田町水防団本部兼水防倉庫	17 年	72 年	423.5	外壁や屋根等の劣化
④本町分団消防屯所	17 年	65 年	382.4	外壁ひび割れ、屋根等の劣化
⑤妙堂崎分団消防屯所	17 年	19 年	111.8	大きな損傷箇所はなし。
⑥廻堰分団消防屯所	17 年	61 年	358.8	外壁や屋根等の劣化
⑦野木分団消防屯所	17 年	28 年	164.7	大きな損傷箇所はなし。
⑧木筒分団消防屯所	17 年	34 年	200	外壁ひび割れ、軒下破損、屋根等の劣化
⑨田の尻分団消防屯所	17 年	32 年	188.2	外壁や屋根等の劣化
⑩大巻分団消防屯所	17 年	69 年	405.9	外壁や屋根等の劣化
⑪亀田分団消防屯所	17 年	38 年	223.5	外壁ひび割れ、屋根等の劣化
⑫瀬良沢分団消防屯所	17 年	32 年	188.2	外壁や屋根等の劣化
⑬横菟松倉分団消防屯所	17 年	28 年	164.7	外壁や屋根等の劣化
⑭沖分団消防屯所	17 年	41 年	241.2	外壁ひび割れ、屋根等の劣化
⑮山道中野分団消防屯所	17 年	32 年	188.2	外壁や屋根等の劣化
⑯胡桃館境分団消防屯所	17 年	30 年	176.5	外壁や屋根等の劣化、1 階天井の破損
⑰菖蒲川鶴泊分団消防屯所	17 年	28 年	164.7	外壁や屋根等の劣化
⑱大性分団消防屯所	17 年	40 年	235.3	外壁ひび割れ、屋根等の劣化

※老朽化率＝経過年数÷耐用年数×100 (令和 2 年 4 月 1 日時点)

4. これまでの主な整備・改修状況

最近の主な整備・改修状況は以下のとおりです。（総事業費が1,300千円以上の主な事業）
※細かな修繕を除く。

事業名	役場庁舎・国際交流会館屋根防水改修事業
対象施設	鶴田町役場（庁舎）、鶴田町国際交流会館
事業年度	平成23年度（2011年度）～平成24年度（2012年度）
事業内容	・屋根防水工事施工管理業務 ・屋根防水改修工事
総事業費	25,924,000円（財源内訳：一般財源25,924,000円）

事業名	鶴田町役場浄化槽等撤去事業
対象施設	鶴田町役場駐車場北側浄化槽
事業年度	平成23年度（2011年度）
事業内容	浄化槽等撤去
総事業費	2,499,000円（財源内訳：一般財源2,499,000円）

事業名	役場庁舎再生可能エネルギー等導入事業
対象施設	鶴田町役場（庁舎）
事業年度	平成24年度（2012年度）
事業内容	太陽光発電設備及び蓄電池設置
総事業費	38,136,000円 （財源内訳：県支出金35,876,000円、一般財源2,260,000円）

事業名	鶴田町役場庁舎空調改修事業
対象施設	鶴田町役場（庁舎）
事業年度	平成25年度（2013年度）
事業内容	庁舎冷温水発生機等更新実施設計業務
総事業費	3,570,000円（財源内訳：一般財源3,570,000円）

事業名	鶴田町役場庁舎空調改修事業
対象施設	鶴田町役場（庁舎）
事業年度	平成26年度（2014年度）
事業内容	・役場庁舎空調改修工事設計管理業務 ・役場庁舎空調改修工事
総事業費	127,969,200円 （財源内訳：国支出金7,734,869円、一般財源50,234,331円）

事業名	鶴田町役場議場音響設備改修事業
対象施設	鶴田町役場（議場）
事業年度	平成 27 年度（2015 年度）
事業内容	音響設備改修工事
総事業費	8,586,000 円（財源内訳：一般財源 8,586,000 円）

事業名	トイレ洋式化改修事業
対象施設	鶴田町役場（庁舎）
事業年度	令和元年度（2019 年度）
事業内容	便器洋式化改修工事（北側 1 階及び 2 階男女トイレ）
総事業費	1,579,650 円（財源内訳：一般財源 1,579,650 円）

事業名	鶴田町役場車庫増築事業
対象施設	防雪センター
事業年度	平成 23 年度（2011 年度）
事業内容	車庫増築工事
総事業費	4,147,500 円（財源内訳：一般財源 4,147,500 円）

事業名	庁舎出入口自動ドア設置事業
対象施設	鶴田町役場（庁舎正面ドア（外側）、1 階階段横ドア）
事業年度	令和 2 年度（2020 年度）
事業内容	庁舎出入口自動ドア設置工事
総事業費	1,452,000 円（財源内訳：国支出金 1,452,000 円）

事業名	庁舎内 wi-fi 整備事業
対象施設	鶴田町役場
事業年度	令和 2 年度（2020 年度）
事業内容	wi-fi 設置工事
総事業費	5,170,000 円（財源内訳：国支出金 5,170,000 円）

第3章 管理整備の方針

1. 鶴田町公共施設等総合管理計画における基本の方針

総合管理計画では、行政系施設の基本的な方針として下記のようにまとめています。

①点検・診断等の実施方針

予防保全の観点から計画的な施設の点検・診断を行い、施設の状況を把握します。

②維持管理・修繕・更新・長寿命化・耐震化の実施方針

点検及び診断等の結果に基づき、施設の適切な維持管理を行い、必要な修繕を行うことで、ライフサイクルコストの縮減・平準化及び長寿命化を実施します。

施設の更新及び耐震化については、施設の必要性や需要を考慮し、総合的に判断します。

③安全確保の実施方針

点検・診断等により高度の危険性があると認められた施設について、適切な時期及び方法で必要な修繕を行います。

④統合や廃止の推進方針

役場庁舎及び防雪センターの統廃合については検討しません。各消防団屯所については、築60年を超える施設もあることから、今後の団員数の推移をみながら統合を検討します。

2. 対策の優先順位に関する基本的な考え方

耐用年数が経過し、老朽化率が高い施設を基本とし、施設の稼働率が高く、施設利用者が多い等、町民に対する影響度がより大きい施設から順に改修・修繕等を行うこととします。整備する対象の選定にあたっては、利用者の安全安心を確保するため、施設（建物・設備）の損傷・劣化等に対する修繕（又は改修）を第一優先とし、次に利用者に対する利便性の確保、次いでバリアフリー対策（トイレ洋式化、手すり設置）等とします。

施設全般が老朽化していることもあり、緊急工事等も懸念されるため、優先順位によらないことも想定されます。

3. 今後の整備方針

施設名	方向性	行動計画	管理方法	説明
①鶴田町役場（庁舎）	存続	一部改修	直営	昇降機の更新、天井照明器具のLED更新工事やトイレの洋式化工事を実施します。屋根及び外壁、窓の改修工事についても実施に向けて計画を進めていきます。
鶴田町役場（ポンプ室）	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
②防雪センター	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
③鶴田町水防団本部兼水防倉庫	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
④本町分団消防屯所	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
⑤妙堂崎分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。
⑥廻堰分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。 下水道接続とトイレの洋式化工事を実施します。
⑦野木分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。
⑧木筒分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。
⑨田の尻分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。 下水道接続とトイレの洋式化工事を実施します。
⑩大巻分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。
⑪亀田分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。 下水道接続とトイレの洋式化工事を実施します。
⑫瀬良沢分団消防屯所	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
⑬横菟松倉分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。
⑭沖分団消防屯所	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
⑮山道中野分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。
⑯胡桃館境分団消防屯所	存続	現状維持	直営	現在の建物を維持します。
⑰菖蒲川鶴泊分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。
⑱大性分団消防屯所	存続	一部改修	直営	建物の一部を改修します。

※施設の方向性等の説明

方向性	行動計画	説明
存続	現状維持	現状のまま維持
	大規模改修	長寿命化等のため、建物を全面的に改修
	一部改修	長寿命化等のため、建物の一部を改修
	多機能化	分類の違う別の目的の施設の機能を取り入れる
	集約化	同じ目的の複数の施設を一つに集約
	広域化	他自治体と施設を共用し、コストを分担
	更新	老朽化等のため建物を更新
廃止	民間移譲	民間事業者等へ譲渡（売却、貸与等）
	転用	施設機能を廃止し、他用途へ転用
	地域移管	利用が地域に限定されている場合、地域へ移管
	除却（廃止）	施設を解体・除却し、機能も廃止

※施設の管理方法の説明

管理方法		説明
直営		町の直営 (個別の業務ごとに私法上の契約で委託する方式を含む)
民間委託	指定管理	指定管理者による管理運営方式
	包括的民間委託	複数の業務や施設を包括的に委託する方式
	P F I など	公共施設等の建設、維持管理、運営等を民間の資金、経営能力及び技術的能力を活用して行う方式

4. 改修等の今後のスケジュール

施設名	今後のスケジュール					
	2021	2022	2023	2024	2025	2026
①鶴田町役場（庁舎）	改修	改修	改修	改修	改修	改修
⑤妙堂崎分団消防屯所	改修					
⑥廻堰分団消防屯所			改修			
⑦野木分団消防屯所		改修				
⑧木筒分団消防屯所	改修					
⑨田の尻分団消防屯所			改修			
⑩大巻分団消防屯所	改修					
⑪亀田分団消防屯所			改修			
⑬横菴松倉分団消防屯所					改修	
⑮山道中野分団消防屯所	改修					
⑰菖蒲川鶴泊分団消防屯所		改修				
⑱大性分団消防屯所	改修					

5. 改修等の事業費・財源

施設名	事業年度	事業費 (千円)	事業費内訳 (千円)	財源 (千円)
①鶴田町役場（庁舎）	2021	288	正面玄関自動ドア装置交換（288）	一般財源（288）
		792	庁舎内ファンコイルユニット等機器更新交換（792）	一般財源（792）
	2022	11,000	庁舎昇降機更新工事（11,000）	一般財源（11,000）
	2023	12,918	庁舎天井照明器具LED更新工事（12,918）	一般財源（12,918）
		9,425	庁舎トイレ洋式化工事（9,425）	一般財源（9,425）
⑤妙堂崎分団消防屯所	2021	200	シャッター軽量化改修工事（200）	一般財源（200）
⑥廻堰分団消防屯所	2023	836	下水道接続及びトイレ洋式化工事（836）	地方債（800） 一般財源（36）
⑧木筒分団消防屯所	2023	200	シャッター軽量化改修工事（200）	一般財源（200）
⑦野木分団消防屯所	2022	600	下水道接続工事	一般財源（600）

			(600)	
⑧木筒分団消防屯所	2021	546	下水道接続工事 (546)	一般財源 (546)
⑨田の尻分団消防屯所	2023	841	下水道接続及びトイレ洋式化工事 (841)	地方債 (800) 一般財源 (41)
⑩大巻分団消防屯所	2021	2,806	外壁及び屋根改修工事 (2,806)	地方債 (2,500) 一般財源 (306)
⑪亀田分団消防屯所	2023	907	下水道接続及びトイレ洋式化工事 (907)	地方債 (900) 一般財源 (7)
⑬横菟松倉分団消防屯所	2025	200	シャッター軽量化 改修工事 (200)	一般財源 (200)
⑮山道中野分団消防屯所	2021	770	下水道接続工事 (770)	一般財源 (770)

※事業費等は、調査・設計の結果を受けて変動する場合があります。

6年後（2026年度）の施設状況比較

総延床面積 (㎡)		維持管理コスト (円)	
現在	6年後 (2026年度)	現在 (※)	6年後 (2026年度)
6,384	6,384	21,238,947	23,686,547

※2017年度から2019年度までの3か年平均

6. フォローアップの実施

計画を着実に推進していくため、PDCAサイクル（Plan（計画）、Do（実行）、Check（評価）、Action（改善））に基づき、計画の評価・見直しを行いながら実施していきます。

施設所管課	総務課
-------	-----

1. 施設の概要

施設名称	鶴田町役場	代表建築年度	1991
所在地	鶴田町大字鶴田字早瀬 200 番地 1	延床面積 (㎡)	4,012
主体構造	鉄筋コンクリート造	構成施設	庁舎、ポンプ室
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	鶴田町の行政サービスを提供する施設であり、災害発生時における災害対策活動の拠点とするため。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
庁舎	20	24	10	12	10	76
ポンプ室	20	16	10	4	2	52

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
-	-	-	-

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
20,418,891	18,704,042	21,815,522	22,496,905

※光熱水費と管理業務委託費の一部には、国際交流会館分と車庫分も含む。

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存続	行動計画	一部改修	管理方法	直営
<p>【施設の現状と課題】 建設後 30 年近く経過しているため、老朽化による建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では建物内窓の故障のほか、屋根及び外壁、照明器具の経年劣化による故障が生じています。平成 23 年度 (2011 年度) に建物屋根の防水改修工事、平成 25 年度 (2013 年度) から平成 26 年度 (2014 年度) までに空調設備の改修工事、平成 27 年度 (2015 年度) に議場音響設備の改修工事、令和 2 年度 (2020 年度) に自動ドア設置工事、wi-fi 整備工事を実施しました。</p> <p>【基本方針】 町の行政機能の中核を担う施設であり、災害発生時には防災活動等の拠点となる施設として重要な役割を担っていることから施設を存続します。今後は老朽化が進み、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、損傷・劣化の程度が著しく、来庁者への負担や職員の業務に影響を与える箇所から優先的に改修・修繕し、施設の長寿命化を図っていきます。 令和 3 年度 (2021 年度) に空調ファンコイルユニット更新、令和 4 年度 (2022 年度) に昇降機の更新、令和 5 年度 (2023 年度) に庁舎天井照明器具の LED 更新工事やトイレの洋式化工事を実施するほか、屋根及び外壁、窓の改修工事の実施に向けて計画を進めていきます。</p>					

施設所管課	総務課
-------	-----

1. 施設の概要

施設名称	防雪センター	代表建築年度	1989
所在地	鶴田町大字鶴田字早瀬 200 番地 1	延床面積 (㎡)	1, 298
主体構造・階数	鉄骨造	構成施設	防雪センター
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	公用車の車庫、除雪車両の格納庫、除雪作業員の休憩所、各課物品庫		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
防雪センター	20	16	8	4	4	52

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
-	-	-	-

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
141, 060	158, 510	173, 255	173, 210

※防雪センターの電気料と管理業務委託費の一部 (電気保安業務、庁舎等清掃) は庁舎分 (国際交流会館含む) に含まれているため、計上していない。

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	現状維持	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>公用車の車庫や除雪車両の格納庫のほか、2階は除雪作業員の休憩室や各課の物品庫として使用されています。現状では、大きな損傷等はありませんが、建設後 30 年近く経過しているため、今後は老朽化による建物や設備の損傷・劣化が懸念されます。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>今後も、公用車の車庫や除雪車両の格納庫、除雪作業員の休憩室や各課の物品庫として継続して使用するため施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	鶴田町水防団本部兼水防倉庫	代表建築年度	1948
所在地	鶴田町大字木筒字上柳川2番地8	延床面積 (㎡)	65
主体構造・階数	木造	構成施設	水防倉庫
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (旧耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は100点満点(表1参照) (単位:点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
水防倉庫	4	8	6	4	2	24

(2) 年間利用回数 (単位:回)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
0	0	0	2

(3) 施設維持管理費 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
18,934	19,129	21,918	31,284

(4) 利用料等収入 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	現状維持	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後70年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では、外壁や屋根等の劣化が生じています。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。特に、岩木川の氾濫等水害時に対応するために必要な施設です。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	本町分団消防屯所	代表建築年度	1955
所在地	鶴田町大字鶴田字相原 46 番地	延床面積 (㎡)	72
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (旧耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	4	8	6	4	2	24

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
590	590	590	590

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
47,095	47,095	62,151	82,499

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	現状維持	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後 65 年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁のひび割れや屋根等の劣化が生じています。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	妙堂崎分団消防屯所	代表建築年度	2001
所在地	鶴田町大字妙堂崎字上林 40 番地 2	延床面積 (㎡)	79
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	20	8	6	4	2	40

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
590	590	590	590

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
44,557	44,557	52,373	63,714

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	一部改修	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。現状では、大きな損傷等はありませんが、建設後 20 年近く経過しているため、今後は老朽化による建物や設備の損傷・劣化が懸念されます。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和 3 年度 (2021 年度) にシャッターの軽量化改修工事を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	廻堰分団消防屯所	代表建築年度	1959
所在地	鶴田町大字廻堰字下桂井 58 番地 14	延床面積 (㎡)	87
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (旧耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	4	8	6	4	2	24

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
590	590	590	590

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
37,063	37,063	44,613	65,103

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	一部改修	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後 60 年以上経過しているため、老朽化が著しく、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁や屋根等の劣化が生じています。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和 5 年度 (2023 年度) に下水道接続及びトイレ洋式化工事を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	野木分団消防屯所	代表建築年度	1992
所在地	鶴田町大字野木字西松虫 75 番地 1	延床面積 (㎡)	78
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	20	8	6	4	2	40

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
649	649	649	649

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
33,591	33,591	41,141	61,631

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	現状維持	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。現状では大きな損傷等はありませんが、建設後 30 年近く経過しているため、今後は老朽化による建物や設備の損傷・劣化が懸念されます。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和 4 年度 (2022 年度) に下水道接続工事を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	木筒分団消防屯所	代表建築年度	1986
所在地	鶴田町大字木筒字西柳川7番地	延床面積 (㎡)	66
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は100点満点(表1参照) (単位:点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	20	8	6	4	2	40

(2) 年間利用者数 (単位:人)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
590	590	590	590

(3) 施設維持管理費 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
235,917	33,417	40,967	61,457

(4) 利用料等収入 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後30年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁のひび割れや軒下の一部破損、屋根等の劣化が生じています。</p> <p>平成29年度(2017年度)にシャッターの軽量化改修工事を実施しました。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和3年度(2021年度)に下水道接続工事を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	田の尻分団消防屯所	代表建築年度	1988
所在地	鶴田町大字廻堰字玉水 59 番地 4	延床面積 (㎡)	57
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	20	8	6	4	2	40

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
354	354	354	354

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
31,855	31,855	39,405	59,895

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	現状維持	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後 30 年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁や屋根等の劣化が生じています。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和 5 年度 (2023 年度) に下水道接続及びトイレ洋式化工事を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	大巻分団消防屯所	代表建築年度	1951
所在地	鶴田町大字大巻字川瀬 82 番地	延床面積 (㎡)	65
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (旧耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	4	8	6	4	2	24

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
354	354	354	354

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
33,244	33,244	40,794	61,284

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	一部改修	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後 70 年近く経過しているため、老朽化が著しく、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁や屋根等の劣化が生じています。</p> <p>令和元年度 (2019 年度) にシャッターの軽量化改修工事を実施しました。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和 3 年度 (2021 年度) に外壁の改修工事 (サイディング張替え) を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	亀田分団消防屯所	代表建築年度	1980
所在地	鶴田町大字鶴田字大泉 12 番地	延床面積 (㎡)	66
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (旧耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	4	8	6	4	2	24

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
531	531	531	531

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
33,417	33,417	40,967	61,457

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	現状維持	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後 40 年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁のひび割れや屋根等の劣化が生じています。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和 5 年度 (2023 年度) に下水道接続及びトイレ洋式化工事を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	瀬良沢分団消防屯所	代表建築年度	1988
所在地	鶴田町大字瀬良沢字長田3番地	延床面積 (㎡)	65
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は100点満点(表1参照) (単位:点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	20	8	6	4	2	40

(2) 年間利用者数 (単位:人)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
413	413	413	413

(3) 施設維持管理費 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
45,880	45,880	57,772	71,284

(4) 利用料等収入 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の現状と課題】 平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後30年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁や屋根等の劣化が生じています。</p>					
<p>【基本方針】 災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	横范松倉分団消防屯所	代表建築年度	1990
所在地	鶴田町大字横范字森口 333 番地	延床面積 (㎡)	64
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は 100 点満点 (表 1 参照) (単位: 点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	20	8	6	4	2	40

(2) 年間利用者数 (単位: 人)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
590	590	590	590

(3) 施設維持管理費 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
45,706	45,706	57,598	71,100

(4) 利用料等収入 (単位: 円)

過去 3 か年			将来推計
2017 年度	2018 年度	2019 年度	2026 年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	一部改修	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後 30 年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁や屋根等の劣化が生じています。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和 7 年度にシャッターの軽量化改修工事を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	沖分団消防屯所	代表建築年度	1977
所在地	鶴田町大字沖字岡田6番地1	延床面積 (㎡)	56
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (旧耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は100点満点(表1参照) (単位:点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	4	8	6	4	2	24

(2) 年間利用者数 (単位:人)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
413	413	413	413

(3) 施設維持管理費 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
44,317	44,317	56,209	69,721

(4) 利用料等収入 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後40年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁のひび割れや屋根等の劣化が生じています。</p> <p>平成29年度(2017年度)に屋根の一部を修繕しました。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	山道中野分団消防屯所	代表建築年度	1986
所在地	鶴田町大字山道字小泉7番地1	延床面積 (㎡)	66
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は100点満点(表1参照) (単位:点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	20	8	6	4	2	40

(2) 年間利用者数 (単位:人)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
590	590	590	590

(3) 施設維持管理費 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
33,417	33,417	40,967	61,457

(4) 利用料等収入 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後30年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁や屋根等の劣化が生じています。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和3年度(2021年度)に下水道接続工事を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	胡桃館境分団消防屯所	代表建築年度	1990
所在地	鶴田町大字境字宮内1番地1	延床面積 (㎡)	77
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は100点満点(表1参照) (単位:点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	20	8	6	4	2	40

(2) 年間利用者数 (単位:人)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
590	590	590	590

(3) 施設維持管理費 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
47,963	66,647	59,855	73,367

(4) 利用料等収入 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	現状維持	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後30年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁や屋根等の劣化、1階天井の一部破損が生じています。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	菖蒲川鶴泊分団消防屯所	代表建築年度	1992
所在地	鶴田町大字鶴泊字東田番外地	延床面積 (㎡)	62
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (新耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は100点満点(表1参照) (単位:点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	20	8	6	4	2	40

(2) 年間利用者数 (単位:人)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
590	590	590	590

(3) 施設維持管理費 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
32,723	32,723	97,273	60,763

(4) 利用料等収入 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存 続	行動計画	現状維持	管理方法	直 営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後30年近く経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁や屋根等の劣化が生じています。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和4年度(2022年度)に下水道接続工事を実施します。</p>					

施設所管課	鶴田消防署
-------	-------

1. 施設の概要

施設名称	大性分団消防屯所	代表建築年度	1980
所在地	鶴田町大字大性字川辺1番地	延床面積 (㎡)	60
主体構造・階数	木造	構成施設	消防屯所
劣化状況調査	未実施	大規模改修	未実施
耐震性	- (旧耐震性基準)	耐震度調査	未実施
施設の目的	災害等有事の際の活動拠点としての役割、また、災害予防の指導及び啓発拠点としての役割を担っている。		

2. 施設の現況

(1) 建物性能 ※建物性能の合計は100点満点(表1参照) (単位:点)

構成施設	耐震性能	老朽化状況	主体構造	大規模改修状況	福祉性能	合計
消防屯所	4	8	6	4	2	24

(2) 年間利用者数 (単位:人)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
413	413	413	413

(3) 施設維持管理費 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
43,776	56,136	103,926	60,416

(4) 利用料等収入 (単位:円)

過去3か年			将来推計
2017年度	2018年度	2019年度	2026年度
0	0	0	0

3. 施設の基本方針

方向性	存続	行動計画	現状維持	管理方法	直営
<p>【施設の現状と課題】</p> <p>平常時は無人の施設ですが、災害発生時は防災活動の拠点として使用されています。建設後40年以上経過しているため、建物や設備の破損・劣化が生じています。現状では外壁のひび割れや屋根等の劣化が生じています。</p> <p>平成24年度(2012年度)に外壁モルタル補修工事を実施しました。</p>					
<p>【基本方針】</p> <p>災害発生時における地域の防災活動の拠点となっていることから施設を存続します。今後は施設の老朽化が進行し、建物や設備の損傷や劣化の発生・進行が予測されるため、計画的な点検を実施し、必要に応じて改修や修繕を行いながら施設の長寿命化を図っていきます。</p> <p>令和3年度(2021年度)にトイレの設置工事と下水道接続工事を実施します。</p>					

【表1】建物性能

評価基準に重みを掛けたものを建物性能とします。

評価基準		重み
①耐震性能	5点：新耐震基準（建築年が1981年（昭和56年）以降） 4点：旧耐震基準であるが耐震性有（Is値0.72以上） 3点：旧耐震基準であるが耐震性有（Is値0.6以上） 2点：旧耐震基準であるが今後耐震改修の計画有り 1点：旧耐震基準（建築年が昭和56年前）	×4
②老朽化状況	法定耐用年数に対する建築経過年数の割合を以下の区分で評価。 5点：0～25%未満 4点：25～50%未満 3点：50～75%未満 2点：75～100%未満 1点：100%以上	×8
③主体構造	5点：主体構造が鉄骨鉄筋コンクリート、鉄筋コンクリート、プレキャストコンクリート等 4点：主体構造が鉄骨造、軽量鉄骨造など 3点：主体構造が木造、コンクリートブロックなど	×2
④大規模改修状況	5点：建築後10年以内の建物（大規模改修が不要） 4点：建物本体の改修を実施 3点：設備の改修を実施 2点：未実施だが、改修計画有り 1点：未実施	×4
⑤福祉性能	エレベーター、多目的トイレ、車いす用スロープ、自動ドア、手すり、点字ブロックの6項目のうち、対応している項目数に応じて評価。 5点：4項目以上対応済 4点：3項目対応済 3点：2項目対応済 2点：1項目対応済 1点：未対応	×2